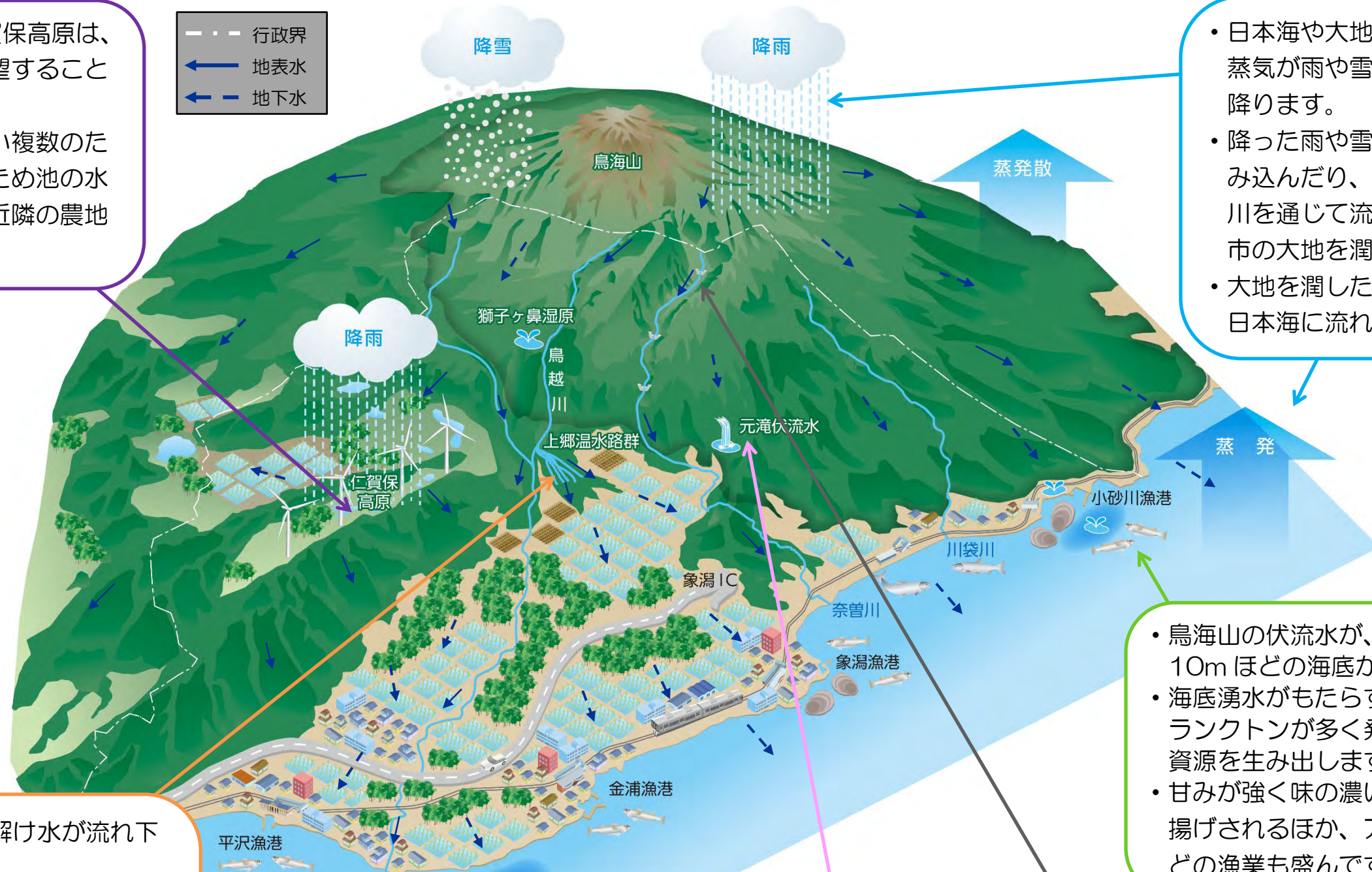
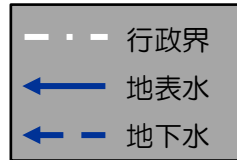


図 B-2 : にかほ市の水循環

～日本海と大地がつくる水と命の循環～

- 標高約 500m の仁賀保高原は、鳥海山と日本海を一望することができます。
- 大湯ため池など、大小複数のため池が点在します。ため池の水は、農業用水として近隣の農地や牧草地を潤します。



- 日本海や大地から蒸発した水蒸気が雨や雪として鳥海山に降ります。
- 降った雨や雪は、鳥海山に染み込んだり、鳥越川などの河川を通じて流れ下り、にかほ市の大地を潤します。
- 大地を潤した水は、最終的に日本海に流れ込みます。

- 鳥海山の伏流水が、砂浜や 0.5m～10m ほどの海底から湧き出ます。
- 海底湧水がもたらす温度差により、プランクトンが多く発生し、豊かな海底資源を生み出します。
- 甘みが強く味の濃い天然の岩ガキが水揚げされるほか、アワビやハタハタなどの漁業も盛んです。

- 鳥海山から、冷たい雪解け水が流れ下ります。
- 冷たい雪解け水は農業に適さず、作物の生育障害を引き起こすため、その対策として温水路が造られました。
- 温水路は、水路幅が広く、水深が浅く、流れが緩やかです。これにより太陽熱で水を温めることができます。

- 元滝伏流水では、鳥海山の溶岩の中を長い年月をかけて通った水が、横幅約 30m の岩肌一帯から流れ落ちます。
- 他にも鳥海山麓では、獅子ヶ鼻湿原や奈曾の白滝など、鳥海山を伏流した水が地表に現れる場所が点在します。

- 奈曾溪谷には多くの砂防堰堤が存在します。中には、秋田県内で初めて作られた堰堤もあり、現在も周辺地域を土砂災害から守る役割を担っています。

△注意！必読のこと！！ 本資料中の説明は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用にあたっては、地元の地形・地質や地下水等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにして下さい。